

# 日本人・外国人ツーリストの観光特性と イメージにみる白川郷の世界遺産観光

市川康夫・羽田 司・松井圭介

キーワード：白川郷，世界遺産観光，ツーリスト，インバウンド，観光イメージ

## I はじめに

本稿は、岐阜県白川村荻町地区におけるツーリストの観光特性と彼らの観光イメージに着目し、白川郷の世界遺産観光を日本人と外国人の両側面から明らかにしようとするものである。白川郷は世界遺産登録以降、急激な観光客数の増加がみられ、2008年には過去最大となる186万人に達した。特に、世界遺産登録によるマスメディアへの露出や行政機関のプロモーションは、白川郷の商品化を大きく進展させてきた（伊藤 2012）。

世界遺産化による観光客の急増は、白川郷に対して様々な影響をおよぼしてきた。例えば西山（2001）は、白川郷における観光業の隆盛は、住宅の新築や農地の宅地化・耕作放棄化を誘引し、景観の変化と価値低下をもたらしたと指摘する。観光化に伴う負の側面は、景観の変容だけではなく、住民の生活や環境の悪化、慢性的な交通渋滞などが挙げられている（佐藤，2015；鈴木，2011）。こうした観光化による負の影響について谷口ほか（2007）は、遺産的価値が後退した白川郷において、その立て直しには内発的な力と外部からの援助が必要であると主張する（谷口ほか，2007）。しかし、小室（2014）が指摘するように、もともとユネスコの世界遺産は、危機的遺産を保護することが本来の目的であり、遺産認定

による観光地化を促進する制度ではない。また、世界遺産登録により、観光客が逆に減少するケースもあり、観光のライフサイクル「導入→発展→成熟→衰退」において、衰退期にある遺産にこそ観光地化が必要であるとの考え方もある（長谷川，2010）。他方、観光化は必ずしもネガティブ影響のみを与えるわけではない。三好（2003）は白川郷の屋根葺きにおけるボランティア精神に着目し、観光化したことが地元ゆかりのない新たなボランティアの参画に繋がったことを主張する。

一方で、近年では白川郷における世界遺産との関わりを含めた新しい現象にも注目が集まっている。例えばアニメなどのコンテンツを利用した観光やインバウンド・ツーリズムがその一例である（井手口，2009；神田，2012；佐藤，2015）。なかでも地域に大きな影響を及ぼしているのは外国人観光客の急増に伴うインバウンド・ツーリズムの発展である。特に、1990年代以降のアジア経済の急成長による訪日観光の活発化は、白川郷における観光客の急激な流入をもたらしている（伊藤，2014a）。このインバウンド・ツーリズムの急速な発展は、飛騨地域内における観光地相互のプロモーションの効果が大きく、世界遺産というブランドとともに白川郷はグローバルな観光地となりつつある（伊藤，2014b）。しかし、近年急速に増加したインバウンドツーリストの観光特性については、

国籍以外には不明な点も多く、佐藤（2015）が指摘するように、外国人観光客の具体的な観光行動を含めた実態調査が求められている。そこで本稿では、日本人観光客と外国人観光客の双方を調査対象とし、彼らの観光特性から白川郷の世界遺産観光の具体像に焦点をあてたい。また、観光客が増加し続けている白川郷において、何が観光客の魅力となり、何が彼らの来訪を動機づけているかを、観光客の白川郷イメージと来訪後の印象との比較から検討することとする。本研究の手順は、Ⅱ章にて白川郷における観光地化の変遷を統計とともに整理をし、Ⅲ・Ⅳ章で日本人、外国人観光客それぞれの観光特性を論じたうえで、Ⅴ章にて観光客の白川郷イメージと実際の印象との関係を明らかにする。

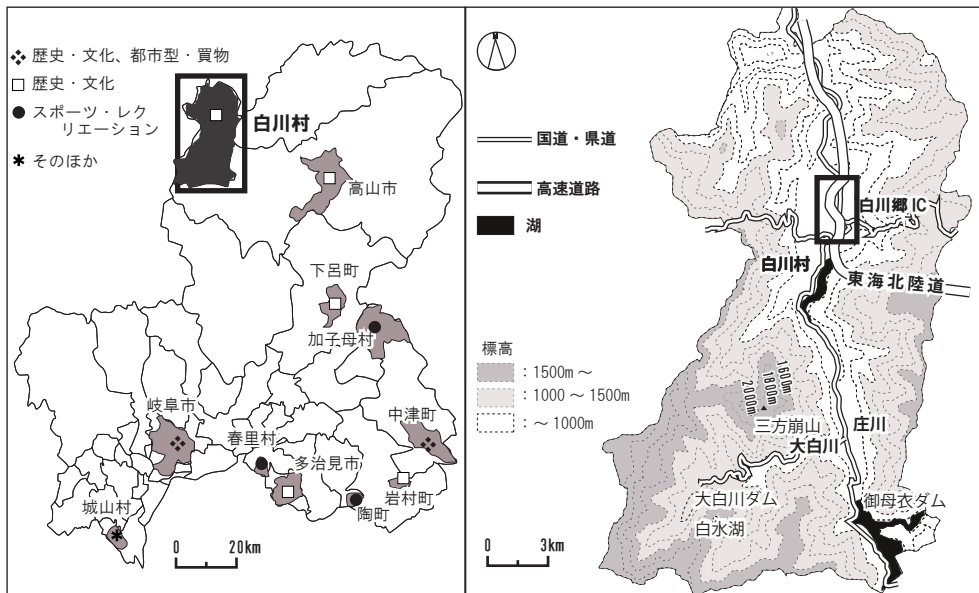
研究対象地域である白川郷は、岐阜県白川村の萩町地区にある合掌造り集落を指す（第1図）。白川村は、村の境界を岐阜県、富山県、石川県の3県にある計9ヵ村の自治体と接する県境の村である。白川郷は山間部にありながら交通のアクセスはよく、東海北陸道の白川郷インターチェンジ

から来訪することが可能なほか、北陸新幹線の開通によってさらにアクセスが向上している。岐阜県におけるほかの主な観光地は、歴史・文化観光が特徴の高山市や温泉を擁する下呂市などが代表である。そのほか岐阜城を擁する岐阜市や宿場のある中津川市がインバウンドを含む観光地となっている。

## Ⅱ 白川郷における観光の発展

### Ⅱ-1 白川郷における観光化への変遷

白川郷における観光地化への変遷を第1表にまとめた。この変遷は開発や保全の経緯から4つの各期に分かれる。それは山村の秘境であった白川郷が徐々に世間へと認知されていく1910年代から1940年代までの「大正～昭和期」、相次ぐダム開発により地域が大きく変容した1950年代から1960年代までの「電源開発期」、観光地化の進展と合掌造りの保全が進んだ1970年代から1994年代までの「保全と観光進展期」、そして世界遺産登録によって白川郷が一大観光地へと変貌した1995年以



第1図 研究対象地域と周辺観光地

（観光地域経済調査（速報）およびOKB総研（2015）を一部引用）

第1表 白川郷における観光地化までの変遷と出来事（2015年）

各期	年	出来事	
大正～昭和期	1920	国鉄高山本線開通	
	1926	平瀬発電所の完成	
	1930～33	高山～荘川村～白川村への道路整備。車での通行が可能に	
	1934	高山本線全線開通	
	1935	ドイツ人建築家ブルーノタウトの来訪	
電源開発期	1952	椿原ダム建設着工(鳩谷ダムは1954年)	茅葺屋根の減少 ↓
	1957	御母衣ダム建設着工	
	1968	加須良集落の集団移転と流入	
保全と観光進展期	1972	白川郷合掌村(現、民家園)オープン	合掌造りの観光資源化 ↓
	1977	白山スーパー林道開通	
	1987	日本ナショナルトラストの合掌造り保存	
	1987	荻町伝統的建物群保存地区保存基金条例	
	1993	「白川郷ふるさと体験館」オープン	
1994	世界遺産推薦		
世界遺産化以降期	1995	世界遺産登録(12月9日)	外国人客の急増 ↓
	2000	五箇山IC、清見IC開設	
	2002	白川郷IC開設	
	2010	集落への大型車両の通行規制開始	
	2015	林道の白山白川郷ホワイトロードへ改称	
	2015	高山駅～白川郷～富山駅高速バス開始	
2015	北陸新幹線開業		

(鈴木(2011), 加藤(2011), 白川村(1968)より作成)

降の「世界遺産化以降期」である。

まず、山あいの静かな集落であった白川村に外部のまなざしが向けられるようになる「大正～昭和期」である。それまで白川郷は、秘境あるいは山奥の別世界とみなされていたが、1920年の国鉄高山本線の開通や昭和初期に進んだ平瀬発電所などの電源開発によって、自動車での来訪が容易になり大きく変化する。それらは、加藤(2001)にみるように新聞・雑誌等への寄稿件数の増加にも表れ、合掌造りや「奇なる習俗」とされた大家族制といった秘境山村の文化に関する記述や研究が多く蓄積された。なかでも、1935年のドイツ人建築家ブルーノタウトの来訪は、白川郷の価値を世間が認知する契機ともなった。

一方、1950年代初頭になると、電源開発事業によるダム開発が急速に進展した。1952年には椿原ダムの建設が着工し、1954年には鳩谷ダム、1957年には御母衣ダムの建設が始まった。これにより、白川村の人口はダム建設労働者の移住と流入により急増し、1950年に約3,800人であった人口は1955年には約6,700人に、1960年には約9,400人

にまでに増加した<sup>1)</sup>。またダム開発に伴う補償金は、養蚕の衰退や屋根葺きの重労働を理由に合掌造りを一般住宅に建て替える住民を増加させ、合掌造りは大きく減少した。1960年代は御母衣ダムの建設で沈んだ加須良集落のように集団離村や村外移住が進んだ時期でもあり、無人となった合掌造りは都会の料亭や民家園に売却されていった。

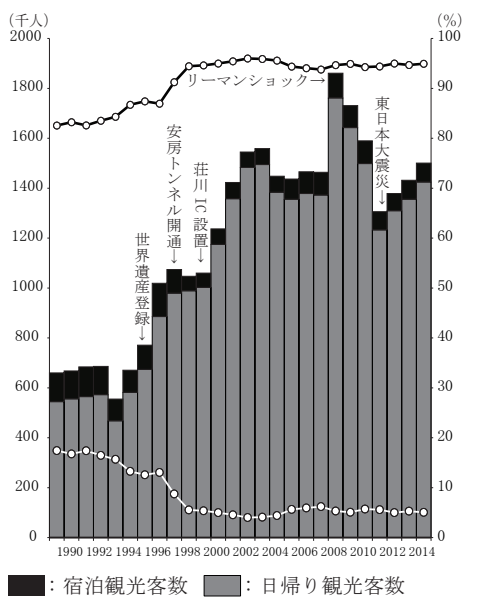
1960年代の電源開発と生活の近代化は合掌造りの減少を招くとともに、文化の衰退と継承に対する危機感から保全への活動が進展する契機ともなった。1960年代後半以降は、全国的に過疎問題や町並み保存運動が進展した時期であり、白川村でも1971年に荻町の合掌造り集落保存の住民組織である「白川村荻町の自然環境を守る会」が結成されたほか、同年には「売らない、貸さない、壊さない」という三原則の住民憲章と茅葺屋根の葺き替えに対する補助金制度が設けられた(黒田, 2003)。

モータリゼーションの進展と全国的な観光経済の活性化は、白川郷が観光地へと変貌する社会的背景となった。1970年に始まった旧国鉄の「デイスカバー・ジャパン」キャンペーンの訪問地に白川郷が採用されたことは「観光地白川郷」の成立において大きな契機となった。これに呼応するように観光化と保全に対する取組が次第に増加し、「白川郷合掌村(現、民家園)」の設置(1972年)や日本ナショナルトラストによる合掌造り保全(1987年)、「荻町伝統的建物群保存地区保存基金条例」の制定(1987年)など様々な制度が整備された。こうした保全や観光化への動きは、1994年の世界遺産への推薦、そして1995年の世界遺産登録へと結実した。世界遺産登録以降は、東海北陸自動車道の整備によって2000年に五箇山インターチェンジが、2002年に白川郷インターチェンジ開設され、大型バスや自動車でのアクセスが格段に向上した。2015年の北陸新幹線の開業と高山駅と富山駅を白川郷経由で結ぶ高速バスの開設は、さらなる観光客の増加をもたらし、特に自動車を持たないインバウンド観光客の急増へと繋がっている。

## II-2 観光客数の推移とインバウンド・ツーリズムの傾向

世界遺産登録前後からの白川郷における観光客数の推移を宿泊・日帰り別に示した(第2図)。まず1989年をみると、日帰り客数は約54万人で宿泊客数は約11万人であったが、世界遺産に登録された翌年の1996年には日帰り客数が約89万人、宿泊客数が約13万人と年間100万人を超えるまでに急増している。宿泊観光客数は1989年から2014年の間では世界遺産登録後の1996年が最も多く、世界遺産のブランド効果が強く影響していることがわかる。一方、日帰り客数についてはインターチェンジの開設や北陸自動車道の整備をうけて一貫して増加を続け、2008年には約176万人にまで増加した。その後はリーマンショックや東日本大震災の影響から若干の減少があったものの、2011年から再び増加の傾向を示している。

山村に位置する白川郷は、四季の変化に伴う観光の魅力が異なるため、月別の観光客数推移を第2表に示した。これをみると、日帰り・宿泊観光



第2図 岐阜県白川郷における宿泊・日帰り観光客の推移(1989～2014年)

(岐阜県白川村観光振興課資料より作成)

客ともに7～10月がハイシーズンであり、宿泊客のピークは夏休みの8月、日帰り客のピークは紅葉が見ごろの10月である。2014年のデータをみると、7～10月に宿泊客では41%にあたる3.1万人が、日帰り客では全体の44%を占める63万人が来訪している。一方、2000年から2014年までの増加率を月別にみると、最も観光客が増加している季節は冬季であり、日帰りは1月と3月が2000年の数の3倍以上、12月については5倍以上の増加となっている。宿泊も同様で、12～4月のシーズンで顕著な増加がみられる。このことから、避暑や紅葉を目的とした夏～秋の観光形態に加え、「冬の白川郷」イメージの定着による冬季の来訪と滞在が盛んになりつつあるといえる。また宿泊客については、海外からの観光客が2000年では全体の0.5%を占めるのみであったが、2010年には3.2%、2014年には22%にまで急増している。

こうしたインバウンドツーリストの変遷を、国籍別の経年変化から第3表に整理した。全体としてはアジア系の観光客が大半であり、なかでも台湾の占める割合が最も多く、その割合は2006年では全体の83%(66,040人)であった。しかし白川郷への来訪者の国籍は、次第に多様化する傾向があり、2014年では台湾が占める割合は57.6%まで

第2表 白川村における月別日帰り・宿泊客数の変化(2000～2014年)

年/月	2000		2005		2010		2014		2000～2014年の増加率	
	日帰り (千人)	宿泊 (人)	日帰り (千人)	宿泊 (人)	日帰り (千人)	宿泊 (人)	日帰り (千人)	宿泊 (人)	日帰り	宿泊
1月	16	2,331	36	3,596	67	6,843	68	5,882	325%	152%
2月	37	4,590	61	4,883	95	7,021	72	5,667	95%	23%
3月	13	2,323	33	3,137	73	6,063	64	5,101	392%	120%
4月	58	3,186	89	4,520	107	6,356	127	5,818	119%	83%
5月	91	6,922	140	8,734	171	8,359	171	6,965	88%	1%
6月	93	3,836	112	4,727	94	5,978	98	3,708	5%	-3%
7月	115	6,020	115	8,361	113	6,842	105	6,240	-9%	4%
8月	159	11,416	161	15,135	177	15,406	166	10,793	4%	-5%
9月	132	5,845	142	7,870	142	8,812	140	6,127	6%	5%
10月	313	8,174	296	11,133	253	9,159	216	8,207	-31%	0%
11月	139	5,772	152	6,450	159	7,338	141	6,417	1%	11%
12月	9	1,321	19	2,260	48	3,578	57	4,815	533%	264%
総計 (海外)	1,175 (334)	61,736	1,356 (1,457)	80,806	1,499 (3,023)	91,755	1,425 (16,680)	75,740	21%	23%
									(4894%)	

注) 網掛けは50%以上増

(白川村観光振興課統計より作成)



第3表 白川村における国籍別外国人日帰り客数の変化（2006～2014年）

国/年	アジア系					ヨーロッパ			米・豪		その他	計
	中国	香港	韓国	台湾	アジア他	フランス	イタリア	ヨーロッパ他	アメリカ	豪		
2006	920		4,090	66,040	2,650	170	380	1,730	2,570	160	290	79,000
2007	2,210	60	7,030	93,290	7,280	600	780	2,610	3,360	310	1,770	119,300
2008	4,420	80	7,230	93,780	7,150	1,320	690	3,400	2,990	520	1,720	123,300
2009	8,140	80	1,870	46,450	7,840	880	870	2,700	1,600	530	1,440	72,400
2010	8,831	5,234	7,983	57,836	12,927	598	1,191	4,404	2,485	879	1,739	104,107
2011	906	3,847	1,794	43,271	3,575	27	44	358	635	95	1,057	55,609
2012	2,235	6,738	3,077	51,254	14,274	52	9	1,167	901	264	1,195	81,166
2013	3,016	12,766	4,966	83,280	21,149	227	219	2,721	2,628	418	2,660	134,050

国/年	中国	香港	韓国	台湾	タイ	シンガポール	インドネシア	マレーシア	アジア他	ヨーロッパ	北米・南米	その他	計
2014	12,992	13,794	4,563	112,306	19,956	4,012	6,612	3,440	682	7,905	3,391	5,479	195,132
割合	6.7%	7.1%	2.3%	57.6%	10.2%	2.1%	3.4%	1.8%	0.3%	4.1%	1.7%	2.8%	

注) 2014年から国籍調査のカテゴリ変更あり。

(白川村観光振興課統計より作成)

後退し、代わって香港やタイ、ヨーロッパの観光客の増加が目立っている。全体の総数については、2006年に約8万人だったインバウンド観光客は、2013年には13.4万人、2014年には19.5万人と、この数年で急成長を遂げている（写真1）。なかでも全体におけるアジアの割合は91.4%（2014年）であり欧米やその他地域を圧倒している。外国人観光客の急増を受け、白川村では村内の観光サービスにおけるインバウンド対応に直面している。その一つがWifiなどのインターネット環境の整備である。白川村では2015年9月より、村内の約30か所において6言語対応の無料Wifiサービ

ス「SHIRAKAWA-GO Free Wifi」（写真2）の提供を開始したほか、大手通信会社KDDIと提携を結び、電波環境の改善に取り組んでいる<sup>2)</sup>。特に、SNSサービスの拡大は、旅行者がスマートフォンやタブレットを撮影した写真をその場でアップロードするニーズをもたらし、通信電波環境の改善は白川郷における観光地化による新たな影響といえる。



写真1 白川郷展望台の外国人観光客

萩町の展望台は外国人観光客の人気スポットであり、欧米・アジア系の多くの観光客が記念撮影を行う。（2015年9月市川撮影）



写真2 白川郷のフリーWifiロゴ

外国人観光客の増加を受けてWifiを整備。四季をイメージしたデザイン。

(白川村役場HPより引用)

### Ⅲ 日本人ツーリストの観光特性と行動

本研究では、日本人ツーリスト74組に対して聞き取り調査を行った。聞き取りを行った場所は、せせらぎ公園やであい橋、荻町合掌集落バス停など公共の場のほか、民芸品や土産物店、喫茶店や食堂など観光客が足を止める場所で行った。聞き取りを行った74組の日本人ツーリストは、滞在の形態と個人・団体のカテゴリから以下の5つに分類した。個人ツーリストで村内外に1泊のみするものを「個人ツーリスト1泊宿泊型」(No1～23:23組)、2泊以上するものを「個人ツーリスト2泊以上宿泊型」(No24～43:20組)、日帰りするものを「個人ツーリスト日帰り観光型」(No44～58:15組)とした。一方、バスツアーや大型バスで観光する団体ツーリストについては、宿泊するものを「団体ツーリスト宿泊型」(No59～72:12組)とし、日帰りするものを「団体日帰り型」(No68～74:4組)とした。

#### Ⅲ-1 ツーリストの属性と傾向

##### 1) 「個人宿泊型」の日本人ツーリスト

白川郷荻町地区における個人宿泊型の日本人ツーリストの特性を、滞在日数の長さから分類して第4表にまとめた。まず、1泊のみの滞在である「個人ツーリスト1泊型(以下、個人1泊型)」は、ほかの類型に比べ若年者の比率が高く20～40代が全23組の43%(10組)に含まれる。彼らの特徴は、1泊の短い行程のなかに白川郷を入れていることから、来訪意志が明確にあり、また土産物や雑貨類などへの消費意欲が高いことである。彼らの宿泊拠点はすべて村外であり、近隣の高山市や下呂温泉などが宿泊地となっている。白川郷へのアクセスは岐阜県内からの自動車による来訪が多く、公共交通機関やレンタカー・タクシーの割合は低い。来訪の目的と理由をみると、「合掌造り」あるいは「世界遺産」というキーワードが23組中16組でみられ、ステレオタイプな白川郷イメージを求めて来訪する傾向がある。彼らの訪問スポットは「和田家」や「展望台」といった定番の場所

が多い。

一方、白川郷を来訪するツーリストのうち、2泊以上を行程に組み込んでいる「個人ツーリスト2泊以上宿泊型(以下、個人2泊以上型)」は、個人1泊型に比べ中高年の比率が高く、予算や日程に余裕を持った観光行動をとる。この類型では、初めて白川郷への来訪したグループが全20組の80%(16組)を占め、金沢市や富山市、岐阜市の経由から周遊観光で来訪したものが多い。宿泊の日数は2泊が12組、3泊以上は4組で、北陸または中部地方を含めた2地点を経由した観光行動が中心である。交通手段は、多様な手段がみられ、なかでもレンタカーやバスの利用が多い。一方、白川郷への来訪目的は、世界遺産や合掌造りへの期待がみられることに加え、アニメや町並み、自然、あるいは周遊観光にちょうど組み込めたという理由もみられ、個人1泊型よりも来訪意志の強さは相対的に弱い。

##### 2) 「個人日帰り型」および団体ツーリスト

個人日帰り型および団体ツーリストの特性を第5表に整理した。まず「個人ツーリスト日帰り型(以下、個人日帰り型)」であるが、この類型は宿泊をせずに、自宅から白川郷へと日帰りで観光するものである。年代は20～60代までの若年～中年層の夫婦やカップルが中心であり、居住地は中部地方や東海地方、北陸の近隣県からの来訪が主である。比較的近隣に居住していることもあり、白川郷への来訪経験が多く、中には4回以上訪れているグループもある(No49, 53, 56)。彼らの予算は、1万円以内が全15組の70%以上(11組)を占め、滞在時間も3時間以内が全体の60%(9組)である。白川郷へのアクセスは岐阜・愛知方面からが70%以上(11組)で、いずれも北陸自動車道を経由し自家用車で来訪している。また、目的も「ついでに寄った」(No44)、「とりあえず来た」(No45, 48, 49, 57)というように、各類型のなかでも偶発的な立寄りが多い。

一方、宿泊を伴う「団体ツーリスト宿泊型(以下、団体宿泊型)」は全体的に中高年層の割合が高く、

第4表 白川郷荻町地区における個人宿泊型の日本人ツーリスト特性

No	個人属性			白川郷への滞在			経費			交通形態			白川郷への観光地認識				
	性別	年齢	住所(県)	職業	回数	滞泊時間	泊客数	総額	主な用途	土産	方面(どこから)	交通手段	道路	旅の決め方	目的(理由)	訪問スポット	
1	男	20代	大阪	大学生	1	4	1	12000	①・② 酒		岐阜	車		なんとなく	白川郷を見てみたかった。	和田家・展望台・合掌造り民家園	
2	女	20代	岐阜	大学生	1		1	未定	未定		岐阜	車		故郷を見てみたかった。	和田家・長瀬家・神田家・明善寺・展望台		
3	男	20代	奈良	会社員(2人)	1	2	1	未定	未定	未定	岐阜	車		かぐぶき屋敷を見たかった。	展望台		
4	女	10-60代	滋賀	退職者・そのほか	1	6	2	10000	①・② 酒	民芸品	岐阜	車	北	休みが取れたため	農村がみてみたいと思ったから。	和田家・展望台	
5	女	21-40	愛知	会社員	1	2	1	未定	①・② 酒	未定	愛知	車		雑誌	合掌造りを見たかったから	和田家	
6	男	21-40	東京	学生	4	2	1	5001~10000	宿泊費・①	祭蘇麻中	長野	車		テレビなど	一度見てみたかった。世界遺産に登録前から来ているが、景色を楽しみに。	特になし	
7	女	21-40	東京	会社員	1	2	2	2001~5000			富山	レ			世界遺産なので、一度は訪れたかった。行ききたい場所(特に)気にして見なかった。	和田家・城山城址展望台	
8	男	21-40	兵庫	会社員	3	2	3	1	①・② 酒	未定	岐阜	車	北	雑誌	特になし	特になし	
9	男	21-40	静岡	介護士	3	2	2	2000~3000	①・② 酒	未定	岐阜	車		パンフ・HP	世界遺産という名目であって見に来た。農業展示場も見学も兼ねている。	展望台	
10	男	21-40	愛知	大学生	1	2	1	12000	①・② 酒	未定	岐阜	車	北	雑誌、HP	合掌造りが見たいから	和田家 城山城址展望台	
11	男	41-60	東京	会社員	1	2	1	5000	①・② 酒	未定	金沢	公	北	雑誌、HP	合掌造りを見たかったから	城山城址展望台	
12	女	41-60	静岡	主婦	1	3	3	10000	①・② 酒	未定	金沢	公	北	雑誌	日本の世界遺産を巡っていたから。	長瀬家 城山城址展望台	
13	女	41-60	和歌山	会社員	1	4	1	1	①・② 酒	未定	岐阜	車		雑誌	合掌造りを見たかったから。	これらに巡るので分からない。	
14	男	41-60	神奈川	会社員	2	4	1	5000	①・② 酒	菓子	岐阜	車	北		合掌造りを見たかった	明善寺郷土館・城山天文台・城山城址展望台	
15	男	41-60	三重	会社員	1	2	2	2000	①・② 酒		岐阜	車	北		世界遺産を見たかった	適当に	
16	女	20/50代	千葉	主婦・会社員	1	4	1	5000	①・② 酒	食べ物・キーホルダー	富山	車・電車		パンフ	世界遺産を見てみたかった。	天守閣・展望台	
17	男	50代	神奈川	会社員	1	2	3.5	4000	②・③		富山	バス			合掌造り有名だから、北陸新幹線に乗りたかった。	和田家・神田家	
18	男	61-	埼玉	会社員	1	2	1	3000	①・② 酒	未定	金沢	公	北	パンフ	合掌造りを見たかったから	和田家	
19	男	61-	石川	会社員	2	2	1	10000	①・② 酒	未定	岐阜	車	北	雑誌	合掌造りを見たかったから	和田家	
20	女	61-	宮城	会社員	1	2	4	2001~5000	①・② 酒	傘・さるぼぼ	岐阜	レ	北		特になし。一度行ってみたかった。	和田家・長瀬家・神田家	
21	女	70代	埼玉	画家	1	4	2	2000	①・② 酒		富山	車			資料収集		
22	女	41-60	福島	会社員	1	2	2	2001~5000	②・③	酒・漬物	富山	車		テレビなど	興味があった。なにか行けないところに来たい。	明善寺郷土史料館	
23	女	20/70代	兵庫	退職者・公務員	1	3	6	10000	①・② 酒	そば・漬物・キノコ・味噌	岐阜	バス	電バ		行っておきたいと思っていた。	展望台	
24	男	61-	岡山	会社員	1	2	2	4000	①・② 酒	饅頭・置き物	岐阜	車	北	雑誌、パンフ	合掌造りを見たかったから	神田家・どぶろく祭りの館・合掌造り民家園	
25	男	21-40	愛知	会社員	2	4	2	2000	①	未定	岐阜	車	北	HP	合掌造りを見たかったから	これらに巡るので分からない。	
26	男	21-40	東京	会社員	1	2	2	未定	①・② 酒	未定	東京	車	北	HP	街並みを見たい	和田家	
27	男	61-	埼玉	無職	1	3	2	6000	①・② 酒	食べ物	富山	タクシー	北	雑誌	金沢から近い距離にあったので。	和田家・展望台	
28	男	61-	福岡・岐阜	退職者	3	6	2	10000	①・② 酒	未定	富山	レ	北		有名だから。	天守閣・展望台	
29	女	61-	東京	医者	1	2	3	~500		軽食	岐阜	公			知名度とメディア露出の高さ。	城山城址展望台	
30	女	21-40	神奈川	会社員	1	2	2	2001~5000	①		富山	レ		テレビなど	白川郷に一度行ってみたかった。北陸周遊の一環で、展望台から写真を撮りたかった。	城山城址展望台	
31	女	21-40	岡山	大学生	1	2	2	1500	①	未定	岐阜	車	北	雑誌	合掌造りを見たかったから。	城山城址展望台 和田家	
32	男	20	東京	学生	1	2	10	10001~20000	①・② 酒	菓子・シャツ	富山	公			日本の伝統文化とアニメに触れる。アニメ(ひぐらし)の聖地に来たかった。	和田家・城山城址展望台	
33	男	41-60	東京	会社員	1	2	6	30000	①・② 酒	未定	金沢	公	北	パンフ	合掌造りが見たいから	和田家	
34	男	41-60	石川	会社員	2	2	2	5000	①・② 酒	未定	金沢	車	北	雑誌	街並みを見たかったから	明善寺郷土館	
35	男	30	東京	会社員	1	2	3	2	未定		岐阜	バス			自然と触れ合いたかった。	展望台	
36	女	41-60	埼玉	会社員	1	2	2	~1000			富山	レ		雑誌	前からきたかった。金沢からきた方が薬なので、泊りがけで来た。	和田家	
37	男	41-60	千葉	公務員	1	2	3	10000	①・② 酒	菓子	長野	車		雑誌	合掌造りを見たかったから	城山城址展望台	
38	女	61-	奈良	自営業	1	4	1	25000	②・③	民芸品・漬物	富山	レ			知人の薦め	一回来てみたかった。南宮玉簾の先生に教えるつもりで行きたくなった。	明善寺郷土館
39	男	61-	広島	会社員	3	4	4	10000	①	未定	金沢	車	北	雑誌、HP	子供を連れてきてあげたかった。	和田家	
40	女	41-60	長崎	公務員	1	2	6	未定	①・② 酒	未定	長野	車	北		世界遺産を見て来た。	和田家・長瀬家・神田家・明善寺	
41	男	21-40	岩手・埼玉	会社員(3人)	1-3	3	1	未定	②・⑤	そば	富山	レ	北新	雑誌	世界遺産だから実際に景色を見てみたかった。	展望台	
42	男	50代	千葉	会社員	1	2	2	5000~6000	①・② 酒	写真	富山	レ	ホ		古民家に興味があった。日本海側に行きたかったため、世界遺産を見たかったため	和田家・明善寺郷土館・城山城址展望台	
43	女	61-	愛知	退職者	1	2	2	2001~5000	①・② 酒		富山	車			四国・九州・中国の周遊旅行の帰り、日ごろがあるので急に来ることになった。	長瀬家・明善寺郷土館	

①食事 ②土産 ③雑貨 ④宿泊費 ⑤その他  
車：自家用車 レ：レンタカー 北：北陸自動車道 ホ：白山白川郷ホワイトロード 新：新幹線

(聞き取り調査により作成)

第5表 白川郷荻町地区における個人日帰り型および団体ツアーリストの特性

No	個人属性			白川郷での滞在			経費		交通形態		白川郷への観光地認識							
	性別	年齢	住所(県)	職業	回数	滞在期間	宿泊拠点	泊数	総額	主な用途	土産	方面(どこから)	交通手段	道路	旅の決め方	目的(理由)	訪問スポット	団体名
44	男	21-40	神奈川	公務員	1	2			~2000			岐阜	車			福井の方に行ったついでに立ち寄った。	特になし	
45	男	21-40	愛知	学生	1	2			~2000	①・② 酒		岐阜	車	北		白川郷の知名度、特に行きたい場所はないが、とりあえず一度行ってみたいと思った。	和田家	
46	男	21-40	愛知	会社員	2	2.5			6000	①・② 漬物		岐阜	車	北	HP	観光地なので来てみたかったがシルバークラウドは最悪なので意図的に避けた。	展望台	
47	女	21-40	愛知	会社員(2人)	2	3			5000	①・② 菓子		岐阜	車	北		合掌造りや農村の景色、山を見たいと思った。	明善寺(これから)展望台	
48	男	21-40	愛知	会社員(2人)	1	2			未定			岐阜	車			観光:白川郷に来てどおりあそびするつもりで来た。何回も来たので、とりあえず今回もきてみた。このあと五箇山の風呂に入る。	和田家・明善寺・展望台	
49	女	21-40	富山	会社員	6	2			2001~5000	①・② 未定		富山	公			合掌造りが見たから	和田家	
50	女	21-40	三重	主婦	1	2			6000	①・② 未定		岐阜	車		雑誌	世界遺産だし一度くらいは行ってみたい	和田家	
51	男	41-60	愛知	会社員	1	2			10000	①・② 酒		愛知	車			合掌造りを見たから	どぶろく祭りの館	
52	男	41-60	岐阜	会社員	1	2			0			岐阜	車	北		行ってみたい		
53	女	41-60	三重	主婦	4	3			10001~20000	①・② 漬物・紫蘇		岐阜	車	北		美味いご飯・飛騨牛の朴葉味噌焼き	合掌造り民家園	
54	男	41-60	福井	会社員	1	3			2001~5000	②/③ 最中		富山	車			特に目的はない。	城山城址展望台	
55	女	41-60	愛知	会社員	1	4			20000	①・② 未定		岐阜	車	北		合掌造りの建築を見たかった。	和田家・長瀬家・神田家・明善寺展望台	
56	女	61-	京都	退職者	5	2			1000	①・② 未定		岐阜	車	北	雑誌	友達と来てみたかったから	和田家	
57	男	61-	埼玉・富山	退職者	1	5			5001~10000	①・② 菓子		富山	車			五箇山に行くつもりだったけど、せっかくだから白川郷にきた。今朝、車の中で決めた。	長瀬家・明善寺郷土館・城山城址展望台	
58	女	61-	石川	退職者	3	4			1500	①・② 未定		金沢	バス	北		合掌造りが見たいから	和田家	
59	女	20	東京都	会社員	1	40		村外	5000	①・② 未定		岐阜	貸切バス	北	HP	合掌造りを見たかったから。	和田家・長瀬家・展望台	近畿日本ツーリスト
60	男	41-60	東京・埼玉	会社員	1	10		村外	未定	①・② 未定		富山	貸切バス	新		世界遺産であるから死ぬまでには来てみたいと思ったから。	展望台	アトラシ
61	女	61-	東京・奈良	退職者	2	2		村外(富山)	未定			富山	貸切バス			黒部に行くのがメインだった。白川郷がコースに入っていたのでできた。	和田家・神田家	読売クラブツーリズム
62	女	61-	神奈川	主婦	2	2		村外(下呂温泉)	1500	未定		岐阜	貸切バス	新聞広告		白川村のおいしい料理を食べたいから。	その他	
63	男	61-	千葉	会社員	2	37		村外(高山)	20000	①・② 菓子・漬物		長野	貸切バス	パンフ		一回目の訪問が良かったから。	和田家・展望台・天守閣	
64	女	61-	奈良	会社員	3	2		村外(金沢)	未定	未定		富山	貸切バス	北	気分転換		クラブツーリズム	
65	男	20代	福岡	会社員	3	19		村外	4000~5000	①・② 未定		富山	貸切バス	北		お客様に来てみたいと思っているから。病院の団体の引	和田家・天守閣・展望台	
66	男	21-40	岡山	学生	1	6		村外(高山)	10001~20000	①・② ③ バッジ・もち		岐阜	貸切バス			担当の先生が行き先を決めた。展望台からの景色をみたかった。	和田家・明善寺郷土館・城山城址展望台	岡山大学
67	女	21-40	東京	会社員	2	2		村外(高山)	2001~5000	①・② ③ さるぼぼ・枕・ハガキ		岐阜	バス	北		もう一度行ってみたいと思った。	和田家・長瀬家・神田家	JTB
68	男	61-	東京	退職者	4			村外	未定	①・② 未定		岐阜	バス			これから遊るので分からない	クラブツーリズム	
69	女	61-	大阪・熊本	主婦	2・3	2		村外	3000	②/⑤ 漬物・せんべい		岐阜	バス	パンフ		良い観光地だから。	長瀬家・明善寺	旅物語
70	女	61-	東京	退職者	2	2		村外(高山)	20000	①・② ⑤ 菓子		岐阜	バス	パンフ		バスツアーの中に含まれていたから。	特になし	
71	女	21-40	石川	バスガイド	30	2			未定	①		金沢	貸切バス	ホ		仕事でバスガイドとして	特になし	北鉄金沢バス
72	男	41-60	石川	会社員	5	4			400	未定	未定	富山	貸切バス	ホ	委員会の研修	どぶろく祭りの館		
73	女	61-	富山	主婦	4	2			2001~5000	①・② ③		富山	貸切バス	ホ		世界遺産に興味があり、学びたかった。	合掌造り民家園	北國新聞世界遺産ツアー
74	男	61-	石川	自営業	1	1.5			5000	②/⑤ 酒・民芸品		金沢	貸切バス	ホ		特になし	城山天守閣 城山城址展望台	職協(市役所)

①食事 ②土産 ③雑貨 ④宿泊費 ⑤その他

車: 自家用車 レ: レンタカー 北: 北陸自動車道 ホ: 白山白川郷ホワイトロード 新: 新幹線

(聞き取り調査により作成)

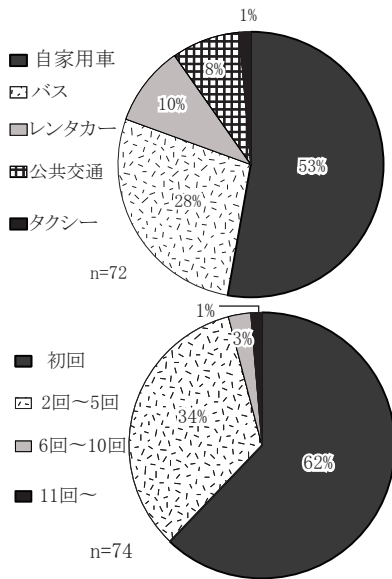
また来訪経験を有するグループが多い(12組中9組)。宿泊先は、下呂温泉や金沢市、高山市など近隣の市町村であり、貸し切りのバスツアーでの参加である。宿泊数は1泊と2泊がそれぞれ半数ずつであり、いずれも短期旅行である。バスツアーはJTBや近畿日本ツーリスト、クラブツーリズムが主催するもので、「北陸周遊」や「世界遺産」、「高山・白川郷観光」をうたったツアーである。訪問目的はツアー行程の訪問地に含まれているため、積極的な理由がない場合もみられ、具体的な訪問

場所や購買行動が未確定なグループもある。一方、宿泊を伴わない「団体日帰り型」の4組は、石川県や富山県など近隣の県から参加したもので、北陸自動車道よりも白山白川郷ホワイトロードからアクセスしていた。

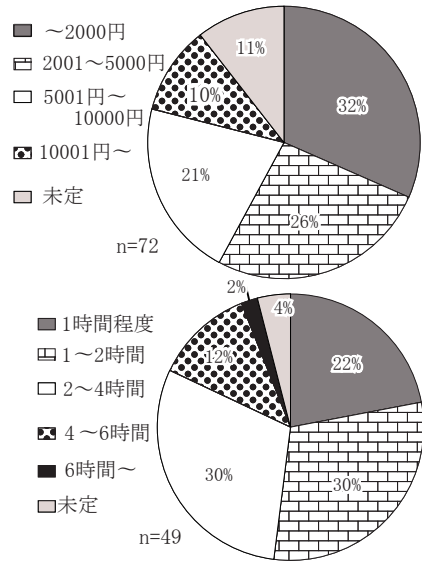
### Ⅲ-2 日本人ツーリストの観光形態

日本人ツーリストの観光行動が類型ごとに特徴を有することをみてきたが、一方で日本人観光客全体として共通する点も存在する。まず、第3図





第3図 白川村における日本人観光客のアクセスと来訪経験 (2015年)  
(聞き取り調査より作成)



第4図 白川村における日本人観光客の滞在時間と消費金額 (2015年)  
(聞き取り調査より作成)

には日本人観光客の白川郷へのアクセス手段と来訪経験を整理した。日本人観光客の53%は自家用車でのアクセスであり、公共交通機関やタクシーの利用は9%と低く、大型バスを利用したツアー客が28%と比較的高い。日本人観光客の居住地は関東圏37%、東海地方が22%、近畿地方が14%を占めており、全体としては西日本からの来訪者が多い。また当日の出発地は43%が富山・金沢方面であり、白川郷はこれら北陸都市を組み合わせた周遊コースの立寄り地点である。また、全体の62%が初めての来訪であり、彼らは「一度は来てみたかった」あるいは「世界遺産だから」というようなメディアや世界遺産の知名度を動機にする傾向がある。

第4図には、白川郷における日本人観光客の滞在時間と消費金額をまとめた。消費金額をみると、2,000円以内とするものが32%と最も多く、5,000円以内と合わせると半数以上の58%になる。大半が日帰り（74組中55組）である日本人の白川郷観光は、消費よりも景観や散策に充てられている。そのため滞在時間は、1～2時間の滞在と2

～4時間の滞在がともに30%と最も高く、全体として4時間を超える滞在はわずか14%である。日本人の観光行動は、短時間の滞在で定番スポットを周遊し、買い物や食事には費用をかけずに白川郷を離れるという点が特徴である。

#### IV インバウンド観光客の観光特性と行動

本調査のうち、外国人観光客にあたるのは計47組である。聞き取り調査は観光案内所を中心に、村内の観光スポットや立寄り場所で行い、調査言語には英語と中国語を用いた。これらは「アジア系観光客」(No1～16:16組)と「欧米系等観光客」(No17～47:29組)の2種類に分類した(第6表)。

##### IV-1 インバウンド観光客の属性と傾向 1) 「アジア系観光客」

アジア系観光客の国籍は、台湾5組、香港5組、中国2組、タイ2組、その他2組となっている<sup>3)</sup>。いずれも東アジアからの来訪が多く、夫婦や家族、

第6表 白川郷荻町地区における外国人ツーリストの特性 (2015年)

類型	基本情報					白川郷と観光						旅程と海外経験			
	No	国籍	同行者	年齢	来日回数	目的	空港	消費	宿泊	買い物	満足度	再訪意思	訪問地(白川郷へのアクセス)	旅行期間(日)	日本以外の海外旅行経験
アジア系観光客	1	韓国	夫婦	21-40	10	観光	富山	①	×	○	95		富山、宇奈月、アルペンルート	5	香港、アジア
	2	タイ	友人	21-40	2	観光	成田	①	×	×			大阪、東京、金沢		イングランド、スイス、フランス、イタリア
	3	タイ	家族		3	旅行	成田	①	民宿	○	95	○	大阪、京都、奈良、神戸、広島	11	ある
	4	台湾	友人		10	ツアー	中部	⑤	×	×	95	○	下呂温泉	5	タイ、シンガポール
	5	台湾	家族		1	ツアー	成田	②	×	×	95	○	黒部立山、東京	5	中国、アメリカ
	6	台湾	夫婦	21-40	2	ツアー	小松	①	×	×	80	○	黒部立山、富山、金沢	5	ある
	7	台湾	友人		4	旅行	中部	②	×	×	100		黒部立山	6	中国、インドネシア
	8	台湾	家族		3	場所	成田	①	×	×	90	×	高山、アルペンルート、東京	5	
	9	中国	夫婦	21-40	10	旅行	中部	①	ホテル	×	80		高山、金沢	5	アジア
	10	中国	家族	21-40	1	観光	中部	②	×	○	90	○	名古屋、金沢、東京、山梨、岐阜	8	
	11	香港	家族		2	観光	中部	①	×	×	85	×	立山、富士山、東京	10	韓国
	12	香港	夫婦	21-40	2	観光	中部	①	×	○	90		名古屋、黒部立山、富山、高山		ある
	13	香港	友人	21-40	5.6								東京、福岡、名古屋、大阪、金沢	8	
	14	香港	家族		7	観光	成田		×	○	90	○			
	15	香港	友人	21-40	3	景観、世界遺産	関西	③	×						ある
	16	マレーシア	家族	21-40	1	観光	関西	③	民宿	○	109	○	大阪、神戸、京都	7	タイ、オーストラリア、アメリカ、香港、シンガポール等
欧米系等観光客	17	イスラエル	夫婦	21-40	1	観光	関西	①	×	×	60	×	京都、上高地、木曾谷、金沢、東京		タイ、ネパール、EU、トルコ、ギリシャ
	18	イスラエル	夫婦	61-	1	旅行	成田	①			100		東京、富士山、高山、京都	17	
	19	イスラエル	家族	21-40	1	ツアー	羽田	①					東京、金沢、松本、高山、京都	14	
	20	イスラエル	夫婦	41-60	1	観光	関西	①	×	○			(路線バス)		ヨーロッパ、中国
	21	イスラエル	家族	21-40	1	観光	成田		×				(路線バス)		ペルー、ボリビア、台湾
	22	イスラエル	家族		1	観光	関西	④	×				(路線バス)		中国、インド、カンボジア
	23	イスラエル	家族	21-40	1	観光	④						(路線バス)	5	
	24	イタリア	夫婦	21-40	1	景観	成田	②	×	○	100	○	東京、金沢、高山、名古屋、京都、大阪	16	ヨーロッパ
	25	イタリア	夫婦	21-40	1	新婚旅行	関西	②	民宿	○			東京、京都、高山	12	アジア
	26	イタリア	家族	21-40	1	休暇	成田	②					(路線バス)		
	27	イタリア	家族		1	観光	羽田	②	×	○			(路線バス)		なし
	28	イタリア	家族	21-40	1	観光	羽田	②	×				(路線バス)		
	29	オーストラリア	家族	21-40	1	文化	成田	②	×						フランス、ドイツ、スイス、トルコ、イングランド
	30	オーストラリア	家族		2	観光	成田	①	×		100		金沢、東京、河口湖、松本、神戸、広島、九州、沖縄	42	
	31	オーストラリア	家族	61-	2	観光	関西	①	×	○	92	○	白浜、京都(列車・路線バス)	7	ドイツ、ニュージーランド、トルコ、ギリシャ、イギリス、EU
	32	オランダ	夫婦	21-40	1	ホリデー	成田	②					東京(列車・路線バス)		
	33	カナダ	家族	21-40、61-	8	文化観光	成田	④①	民宿		70	×	東京、軽井沢、能登	14	17か国
	34	スイス	家族		1	休暇	成田	②	×						オーストラリア、アメリカ、南米
	35	スイス	夫婦	21-40	1	観光	福岡	①	×	×					
	36	スイス	夫婦		1	文化観光	成田		×	×	99		金沢、広島、大阪、京都、東京		ヨーロッパ、カナダ、アラスカ、カンボジア、ベトナム
	37	スペイン	友人	21-40	1	場所	成田	①							8
	38	スペイン	夫婦		1		成田		×				(路線バス)		
	39	スペイン		61-			成田	①	×			○	東京、箱根、金沢、京都、広島		アジア、中国、イタリヤ、イギリス、フランス
	40	スペイン	夫婦	21-40	1	観光/食	羽田	①	×	×			東京、日光、箱根、京都、宮島、鎌倉、神奈川、大阪	16	ヨーロッパ、タイ
	41	スペイン	一人		1	観光/景観	中部	④	×	×	80	○	東京、京都、岡崎、高山	14	EU、アメリカ、アジア
	42	フランス	夫婦	61-	1	村の景観、食	羽田	②	民宿				東京、鎌倉、富士山、三河田原、高山、上高地	15	スペイン、ポルトガル、トルコ、キューバ、エジプト等
	43	フランス	夫婦	21-40	3	旅行	羽田	③	×				(列車・路線バス)		
44	フランス	家族	-20	2	歴史	羽田	②	×				(路線バス)			
45	フランス	家族	21-40	1	世界遺産	羽田	③	×	×	75		東京、屋久島		ヨーロッパ	
46	フランス		21-40	1		羽田	②	×	○	75	○	東京、京都、高山	21	ルーマニア、インド、カンボジア、インドネシア	
47	ベルギー	夫婦	21-40	1	世界遺産	羽田			×	85	○	東京、金沢、京都、名古屋、日光、奈良(列車・路線バス)		カナダ、フランス、スペイン、ロシア、イタリア	

①食事 ②土産 ③雑貨 ④宿泊費 ⑤その他 ○:有り ×:なし

空欄はデータなしを示す

(聞き取り調査により作成)

友人グループを中心に20歳代から40歳までの比較的若い年齢層が多い(14組中9組)。いずれも来日経験は平均4回以上と豊富であり、5回以上の来日経験も5組あった(No1, 4, 9, 13, 14)。彼らの目的は、観光や遺産、景観のほかに、ツアーの来訪地であったためという理由も多い。アジア系

観光客はバスツアーの傾向が強く、なかでも香港や台湾の観光客で顕著にみられる。白川郷での消費行動については、食事と答えるものが最も多く、次いで土産と雑貨が挙げられている。村内で宿泊は全体のうち3組のみであり、ほかはすべて日帰りである。満足度の平均は91.2点(100点中)と

高く、再訪を希望する者も7組（No3, 4, 5, 6, 10, 14, 16）あった。旅行の期間は平均6.7日と欧米系の観光客よりも短く、長くても11日程度である。訪問地には北陸の市町村が多く挙げられ、富山市や黒部市、立山アルペンルートなどが人気である。また、日本以外の海外旅行経験は少なく、日本への近接性が訪問理由にもなっている。

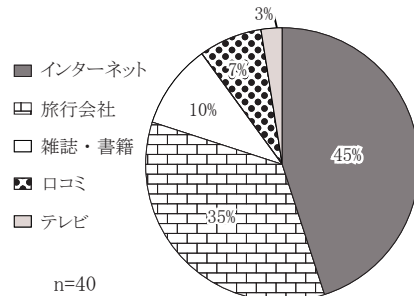
## 2) 「欧米系等観光客」

白川郷では、国籍の多様化とともに欧米やその他の国からの来訪が増加している。「欧米系等観光客」をみると、ヨーロッパからのグループが29組中20組であり、その内訳はイタリアとスペイン、フランスがそれぞれ5組と欧州ラテン諸国が中心である。アジア系と同様、20歳代から40歳未満を含むグループが47組中19組と多く、白川郷は若年層に人気の高い観光地である。欧米系の場合は、夫婦または家族での来訪が大半であり、1組を除きすべて個人旅行者である。

訪問の目的はアジア系と異なり多様である。なかでも文化に対する関心が高く、日本食や農村景観、家屋など具体的な訪問動機を有することが特徴である。旅行費用は、食事のほかに宿泊費や日本的な雑貨・民具などへ充てられている。日本以外の旅行経験はアジア系観光客に比べ豊富であり、ヨーロッパを中心にアジアへの来訪経験が比較的高い。白川郷へのアクセスは、路線バスや公共交通機関を乗り継いで来るグループが多く、日本滞在中で訪れる訪問地も多様となっている。日本での滞在日数は、15.5日と2週間を超えており、長期滞在のなかで白川郷を組み込んでいる。満足度は86.6とアジア系観光客よりも低く、豊富な海外旅行経験をもとに相対的に白川郷を評価している様子がうかがえる。

### Ⅳ-2 外国人ツアーリストの観光行動と形態

外国人ツアーリストの観光行動は、国籍ごとの相違のほかに全体としての共通点も有する（第5図）。まず、白川郷を知ったきっかけをみると、インターネットが45%と最も多く、雑誌やパンフ



第5図 白川村における外国人ツアーリストが白川郷を知ったきっかけ（2015年）

（聞き取り調査より作成）

レットが多い日本人とは情報源が異なっている。また、インターネットの次は35%を占める旅行会社であり、ツアーに依存するアジア観光客を中心に利用されている。また、ロコミは訪日外国人にとって重要で、インターネットサイトに書き込まれた評判と合わせて大きな情報源となっている。全体としては日本人よりも白川郷への宿泊傾向が強く、合掌造りの民宿で囲炉裏を囲んで食べる食事や、畳と布団と浴衣といった日本ならではの観光を求めて来訪している（写真3）。外国人観光客が多い合掌造り民宿によると、インバウンドツアーリストは民宿での日本食に価値を見出しており、洋風の朝食を出すと「なぜここまで来て和食



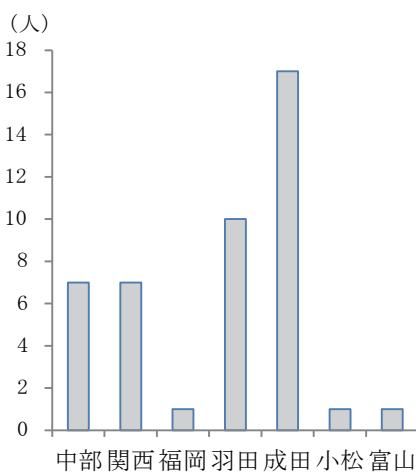
写真3 合掌造り内部の囲炉裏

宿泊客は、囲炉裏を囲んで食事をとることもある。

（2015年9月市川撮影）

ではないのか」という意見が聞かれるという<sup>4)</sup>。民宿は、外国人の受け入れにあたりホームページの英語化や英語の習得を意識しており、原則電話でのみの予約制である白川郷の宿泊業にとって、最低限の英語能力が必要条件になりつつある。日本への入国空港をみると、外国人観光客の入国は成田空港が最も多く羽田空港が2位である(第6図)。また、関西空港や中部空港にも一定の利用者数があり、特にアジア系観光客において東京以外の地方空港が利用される傾向にある。

白川郷を訪れる外国人の滞在先に目を向けると、以下のような訪日観光パターンを見出すことができる。1つは東京から入り、名古屋や大阪といった大都市を経由する①「大都市周遊型」であり、もう1つは寺社や仏閣、その他文化的な体験を重視する②「文化重視型」である。後者の文化重視型には、東京から入り、鎌倉や富士山、京都など認知度の高い定番スポットを周遊するパターンと、高山や立山、能登など海外では比較的知名度が低い、よりオーセンティックな体験を重視する観光パターンの2種類がみられる。全体としては、白川郷を訪れるために日本に来たという外国人はおらず、周遊観光の立寄り地であることが明らかとなった。



第6図 白川村における外国人観光客の日本入国空港 (2015年)

(聞き取り調査より作成)

## V ツーリストのイメージにみる世界遺産白川郷

### V-1 ツーリストのイメージと印象

#### 1) 日本人の観光イメージと現実

ツーリストがいかなる動機のもと白川郷を来訪しているのかを知るために、その手掛かりとして観光イメージに注目した。日本人については、来訪前と来訪後とに分けて印象やイメージに関する聞き取り調査を行った。

白川郷における日本人ツーリストの来訪前のイメージを整理した(第7表)。まず最も多く聞かれたのは白川郷に対する「冬のイメージ・雪の白川郷」(計9組)である。山村あるいは山深い場所の豪雪地帯という観光者のイメージは、屋根に雪を載せた合掌造りの宣伝写真や「雑誌・パンフレットイメージ」(No53)に起因する。これら豪雪地帯のイメージは、白川郷の農山村としてのイメージとも強い相関関係があり、それは白川郷が「田舎」(No3, 29, 36, 41)あるいは「人里離れた山のイメージ」(No9, 41, 50), 「秘境のイメージ」(No71)を想起させる場所であることを意味する。また白川郷は、「昔の日本の風景」(No3, 11, 29, 36, 41)が残る「純農村」(No6, 30)であり、そこには「のどかな雰囲気」(No2)が広がっている。

第7表 白川郷荻町地区における日本人ツーリストの来訪前イメージ (2015年)

分類	来訪前のイメージ
り・合掌造・集落	集落が密集(no1),冬のイメージ・雪の白川郷(no18/26/27/31/50/53/55/56/71),写真やメディアでよく見るイメージ(no53),
自然・景観	景色が綺麗(no10),山と川の景観が良い(no23),雑誌でよく見る美しい風景(no37)
農村・山村	のどかな雰囲気(no2),田舎というイメージ(no3/29/36/41),純農村(no6/30),人里離れた山のイメージ(no9/41/50),昔の日本の風景(no11/16/34/57),古風な感じ(no17),秘境のイメージ(no71)
観光	世界遺産というイメージ(no11/28)
ほかの	アニメむぐらしのイメージ(no32/48)

注) noはツーリストの特性の表と共通 (聞き取り調査により作成)



るという観光者のノスタルジックな農村に対するまなざしがある。そのほかでは、自然や景観イメージ、「世界遺産」(No11, 18)や「アニメの舞台」(No32, 48)も挙げられた。

これらツーリストが来訪前に抱いていた白川郷イメージは、実際の印象との比較においてどのような特徴を有しているのかについて第8表に示した。これをみると、観光者の白川郷イメージと現実との間には多くの相違点があることがわかる。まず代表的なものとして、「思ったよりも観光地化していた」(No7, 11, 16, 29, 55)、「もっと田舎だと思っていた」(No29)、「もっと農村の景観を見たかった」(No4)というように、静かな山村とは異なる様子に違和感を抱く点が挙げられる。牧歌的な農山村とのイメージのギャップは否定的な印象にもつながっており、「人と店、観光客が多い」(計6組)あるいは「人が多い」(No19,73)あるいは「外国人が多い・多すぎる」(計8組)といった予想以上に観光地化していることに対する懸念もみられる。海外ツーリストとの関連においては、アジア系を始め観光客の急増と言語に対応しきれていないことが挙げられている(No17, 37)。

続いて多く聞かれた意見は、「合掌造りに人が住んでいることに驚いた」(No3, 31, 54, 69)あるいは「普通の民家も多い・増えた」(No38, 51, 63)というような、「観光的なものとプライベートな住民生活が混在」(No45)していることに対する驚きである。これは、文化保存地区内に住民の洗濯物や子供の遊具など生活感が垣間みられることへの違和感のほか、メディアを通してみてきた白川郷イコール合掌造りの強いイメージとのギャップを示している(写真3)。

肯定的な意見については、合掌造り集落が思った以上に広くゆったり歩けること(No1, 5, 54, 57)、あるいは観光化によって電柱や看板が配慮されており、トイレやごみ箱など整備が行き届いている(No66, 73)など、観光地化したことで整備が進んだ環境に好印象を抱く意見もある。また「水の景観」(No43, 46, 57)、風景・植物や雰囲気(No2, 6, 17, 20, 32, 49)など自然にまつわるものも多くみられた(写真4)。全体としてみると、メディアが表象する白川郷イメージとのギャップに違和感や落胆を覚えつつ、合掌造りの建築と文化、豊かな自然や景観・眺望などから好印象な観光地として日本人観光者は捉えている。

第8表 白川郷荻町地区における日本人ツーリストの来訪後の印象(2015年)

分類	来訪しての印象
り・合掌造り・集落	(道が)広くゆつくり歩ける(no1),合掌造りに人が住んでることに驚いた(no3/31/54/69),もっと農村の景観を見たかった(no4),思ったよりも集落が広い(no5),村全体がきれいな(no5),合掌造りが増えている(no13),合掌造りが多く驚いた(no21),街並みが綺麗(no39),合掌造り建築の技術や迫力(no41/42/43/52/55),村全体が想像してたより広い(no54/57),電柱や看板が配慮されている(no66),整備されて綺麗になった(no73)
自然・景観・農村	自然が豊か(no2),展望台からの景色がメディアで見たものと同じ風景だった(no6),雰囲気が良い(no17),とにかく山が綺麗(no20),冬に来訪したくなった(no27),景色が綺麗で癒された(no32/54),水の景観が綺麗(no43/46/57),コスモスや木々が綺麗(no49),展望台からの景色が良い・美しい・良かった(No2/3/7/10/12/16/27/28/48/66)
農山村	農村・田舎暮らしの雰囲気(no9),もっと田舎だと思っていた(no29),民家に生活感がある(no36),普通の民家も多い・増えた(no38/51/63),田が綺麗(no46),山の中にある村という感じが良い(no66)
観光	店がたぐささんあり観光地の印象(no2/29/30/44/45),思ったよりも観光地化していた(no7/11/16/29/55),中国人が多い(no8/67),人と店、観光客が多い(no10/12/22/30/34/35),急激に観光化した(no13/55/57),人が多い(no19/73),思ったよりも人が少ない(no14/15),英語表記と中国語表記(no17),外国人が多い・多すぎる(no18/23/41/46/47/50/65/70),看板が景観を損ねており規制が必要(no29),観光客の急増に対応しきれていない(no37),外国人のマナーが悪い(no71),バスターが多い(no73)
その他	メディアでみた白川郷とは(良い意味で)違う(no22/23/62),すべてが綺麗で移住したくなった(no38),観光的なものとプライベートな住民生活が混在している(no45),新幹線開通による金沢の影響を強く感じた(no49),別の季節に再訪したい(no59/63/60),寺や神社が印象に残った(no34/40/72)

注) noはツーリストの特性の表と共通

(聞き取り調査により作成)



写真4 白川郷中心部の非合掌造り民家  
 萩町の中心部には非合掌造りの民家も多い。  
 (2015年9月市川撮影)

## 2) 外国人観光客の印象が語るもの

第9表に、外国人観光客の白川郷に対する来訪後の印象と感想を示した。まず、肯定的な印象として目立つのは「(全体的に) 美しい・素晴らしい・良い」(計12組)であり、このなかには風景や自然、合掌造りや日本の文化など様々な要素が含まれる。外国人観光客の場合は、言語の障壁や情報の少なさ、ツアーでの訪問といった事情から、実際に訪れての印象は場所全体への評価になりやすい。より具体的な評価としては、「景観・風景が美しい」(No1, 6, 7, 17, 40, 45)、「合掌造りが素晴らしい・良い」(No2, 3, 10, 24, 30)、あるいは「伝統性が良い」(No4, 12, 31)」といった合掌造り集落そのものを印象として語るものが多い。多く聞かれた「きれい、美しい」という表現のニュアンスにおいては、アジア系の観光客の「ゴミがない」あるいは「水と空気がきれい」という自国との比較から述べた感想のほか、欧米系観光客の「自然と人間の営みが合わさってきた風景」を評価する2通りが含まれる(写真5)。

一方で、否定的な意見もあり、特に「観光地化しすぎている」(No1, 17)、「典型的な観光地」(No33)というような、山深い場所には本物の日本の農村があるというような期待と現実との乖離が一部でみられる。また、現地のサービスや利便性(写真6・7)、対応(No5, 8, 19, 33)などにおいて不満を有するものもあり、特に言語への対

第9表 外国人観光客の白川郷に対する来訪後の印象と感想 (2015年)

分類	来訪しての印象
印象・感想	肯定的 (全体的に) 美しい・素晴らしい・良い (no4/13/14/16/18/25/35/36/37/39/46/47), 景観・風景が美しい\no1/6/7/17/40/45), 清潔・ きれいである(no1/4/5), 合掌造りが素晴らしい・良 い\no2/3/10/24/30), 伝統性が良い (no4/12/31), 水が綺麗(no5/10), 空気が綺麗 (no5) 自然が素晴らしい(no24/41/45), 歩いて回 る楽しさがある(no40), 本物の日本の農村(no42)
	否定的 道路が広すぎ(no16), 態度の悪い案内人がいた (no33), 典型的な観光地という印象(no33), 観光地 化しすぎている(no1/17), 英語表記が少ない (no19), バス移動が長い\no5), 展望台が遠い\no8)
つ費用 いてに	妥当・普通(no4/5/6/9/25), 安い (no13/16/17/24/33), 高い\no42)
その他	スイスのような感じだと思っていた(no1), 天候が良 ければよかった(no5/10), 店では日本の伝統的商 品が多く印象的(no42), 観光地として組織化して おり、人々は親切である(no34)

注) noは観光客の特性の表と共通  
 (聞き取り調査により作成)



写真5 白川郷中心部の水田と水の景観  
 (2015年9月市川撮影)

応を要望として挙げている。そのほか費用については、「妥当・普通」(No4, 5, 6, 9, 25)あるいは「安い」(No13, 16, 17, 24, 33)とするものが大半を占める。具体的な金額としては、イタリアから





写真6 白川郷中心部の灰皿と注意書き

合掌造りは火に弱いため、ゴミ箱や灰皿が整備されるが、観光地との印象も同時に与える。

(2015年9月市川撮影)



写真7 海外言語に対応した集落地図

(2015年9月竹原撮影)

のNo25が12日間で54万円、カナダからのNo33が14日で48万円、スペインからのNo39が67万円というように、予算額は比較的大きく、白川郷へ来訪する観光客には比較的に裕福な人々が多い。

## V-2 急速な観光地化がもたらしたもの

白川郷において急速に進展した観光化は、地域の生活に様々な影響を及ぼしてきた。その影響は、

観光と生業との関係、世界遺産区域内における住民の私生活と観光者の視線における住民の葛藤ともいえる。生業との関係でいえば、農村景観としての田畑が例として挙げられる。1970年代以降、観光需要の高まりに応じて住民は農業から商業へと生業の依存を高めてきた。これにより、農業は大きく衰退し、田畑の荒廃が進展した。しかし、世界遺産への登録が確定すると、農村景観を遺産の構成要素として保護する必要性が住民の間で共有され、田畑は観光客の求める世界遺産たる農村景観のために再資源化されている。地域の住民は田畑も常に観光客の視線なかにあることを自覚しており、畦の草は丹念に刈りとられ、収穫された稲は田の真ん中で展示物のように、はざ干し<sup>5)</sup>される。

年間150万人、一日に換算すると4000人を超える観光客が来訪していることになる白川郷において、住民の生活は常にとめどなく押し寄せる観光客と隣り合わせにある。ハイシーズン時の土日ともなれば中心集落の道は人々で溢れ、混雑時には住民が車で移動することも困難となる(写真8)。増え続ける観光客と自動車による生活環境の悪化は、中心集落への車両進入規制の契機となり、大型駐車場の設置を促した。近代的な大型駐車場に



写真8 観光客によって占められる集落道

荻町集落の中心部の道は生活道でもあるが、居住者の車の出し入れは混雑時には困難である。

(2015年9月市川撮影)

大型バスや自動車で乗りつけた観光客が、列をなして合掌造り集落へと移動する様子は、白川郷のマスツーリズム化を象徴している（写真9）。

こうして日々来訪する観光客の行為のなかには、住民の私生活とプライベートを脅かすものもみられる。それは、観光客が民家の庭先や敷地に入りこむ行為のほか、一般家庭の玄関を開けて家屋の写真を撮る行為などである<sup>6)</sup>。観光客による住民の私的領域の侵入には、世界遺産化に伴う合掌造り集落の公共財化が背景にある。ユネスコの世界遺産という人類共通遺産を示すラベリングが、一部の人間にとっての私的領域と公的領域との境界を曖昧にし、私有地への立ち入りや無遠慮にカメラのレンズを向ける行為に繋がっている。一方住民は、自らのプライベートや私生活を守るため、敷地進入への警告を喚起する看板や監視カメラの設置で対策する光景もみられる（写真10）。

世界遺産地区における見る側と見られる側との関係は、白川郷が農山村の人間生活と一体となった文化遺産である限り、観光客と住民との間に様々な意見の相違をもたらす。その点で、白川郷は限られた狭い空間的範囲に両者が共存するため、一層の関係調整が必要となる。この限られた範囲は、土産物店や飲食店、見学可能な合掌造りが位置する中心部であり、人々はこれら観光サー



写真9 大型駐車場と合掌造り集落を結ぶ橋

伝統的な合掌造り集落と近代的な大型駐車場を隔てる橋は、世界遺産地区における両者のコントラストを強調している。

(2015年9月市川撮影)

ビスの提供場所に集中する。一方、同様な合掌造り集落でも、商店や特別なサービスが立地しない場所は中心部から近い場所でも人がまばらになる（写真11）。日帰り観光を中心とする白川郷の世界遺産観光は、限られた時間の中で観光客の満足をみたくサービスが積極的な消費の対象となり、自



1. 家の軒下



2. 土産物店



3. 民宿の玄関先

写真10 白川郷中心部に設置される監視カメラ  
観光客が多く行き交う中心集落では、軒下や玄関先などに監視カメラが設けられることもある。

(2015年9月市川撮影)



写真11 中心部から離れた合掌造り集落

集落中心部より5分ほど歩くと、休日でも人がまばらになる。

(2015年9月市川撮影)



らの白川郷イメージを景観や合掌造りに見出すことが大きな目的になっている。

## Ⅵ おわりに

白川郷は、大正～昭和初期の鉄道・道路整備を契機とし、外部の人間の往来とまなごしのなかで変貌を遂げてきた。観光地としての白川郷は、電源開発や過疎化による合掌造り衰退への危機感が保全と観光化を推進することで形成された。合掌造りが資源化されるなか、世界遺産への登録は観光地化を大きく進め、インバンドツーリズムを取り入れながら急速な発展を促進した。

白川郷を訪れる観光客の特性の要点は、以下のようによまとめられる。まず、日本人観光客は個人と団体とに大きく分類され、個人客では宿泊数が少ないほどステレオタイプな白川郷イメージを求め、2泊以上になると立寄り地点として白川郷を訪れ、日帰りの場合は偶発的な立寄りの性格を有していた。一方、バスツアーを主とする団体客は、来訪経験を有する中高年層が宿泊組に多く、そのなかでも世界遺産や白川郷への憧れから積極的に来訪したものと、北陸周遊の一環としてとりあえず立寄るものとの2パターンに分かれた。

一方、外国人観光客は、大きくアジア系観光客と欧米系等観光客の2種類に分かれた。アジア系は、欧米系よりも短い滞在のなかでの日帰りを特徴とし、北陸団体観光を軸とした滞在が主な傾向であった。欧米系は、団体よりも個人の家族

旅行が多く、2週間を超える長い周遊滞在のなかで白川郷を来訪していた。外国人観光客全体では、大都市を中心に回る大都市周遊型と、神社仏閣などを訪れる文化重視型に大別され、後者は定番スポットを周遊するパターンと、よりオーセンティックな体験を重視するパターンがみられた。

これら観光客が抱く世界遺産白川郷のイメージは日本人と外国人では異なる傾向があった。日本人は、メディアが表象する農山村らしい白川郷イメージとのギャップに違和感や落胆を覚えつつ、合掌造りや豊かな自然、景観を観光地として評価する傾向にあり、外国人は白川郷全体の様相を好印象として捉える傾向にあった。日本人、外国人ともに来訪して抱いた印象には、観光地化した白川郷への否定的な意見も含まれ、山深い秘境へと訪れたつもりが、予想外の観光地ぶりに驚く様子が多くみられた。こうした急速な観光地化は、地域の住民生活にも影響を及ぼしており、世界遺産区域内における住民の私生活と観光客の視線との間に住民の葛藤を生じさせていた。まなごす側の期待とそれを受け入れる地域との間には、世界遺産という共通の括りに対する異なる思惑が存在し、両者の立場の違いが私生活の境界に意見の相違をもたらしている。白川郷はしばしば過度に観光化しすぎた側面が否定的な文脈で語られるが、むしろ狭く限られた地域のなかで、いかに観光と住民生活の両者を調整していくかを問うことが今後さらに求められるであろう。

本稿には、平成27～29年度科学研究費補助金基盤研究（B）「日本におけるインバウンド・ツーリズムの発展に関する地理学的研究」（研究代表者：呉羽正昭）および同 基盤研究（A）「世界遺産の創造と場所の商品化に関する理論的・実証的研究」（研究代表者：松井圭介）の一部を使用した。本稿のデータは、筑波大学地球学類人文地理・地誌分野の川添航、竹原繭子の両氏のグループ調査が基礎となっている。

### [注]

- 1) 国勢調査統計による。周辺のダム工事完了により人口は急減し、1965年には3,211人にまで減少している。
- 2) このほかワイヤ・アンド・ワイヤレス社の提供による「Travel Japan Wifi」の提供も2015年から開始されている。
- 3) 聞き取り調査の対象は観光案内所および白川村内部にいた外国人観光客である。被調査者は47組で、

聞き取り調査を行った日は9月25日、26日、27日、時間帯は主に10時から11時半、13時半から15時頃である。

- 4) 民宿は食べなれたものを朝食にはというサービスであるが、喜んで洋食を受け入れる場合と2パターンあるという。
- 5) 「はざ干し（稲干し）」あるいは「はざ掛け」は、収穫した稲を束ね、木材などで作られた柱に吊るして干す作業のことで、これを行うことで米の旨味が増すといわれる。はざ干しの風景は、観光者にとって昔ながらの農村風景やどことなく懐かしい情緒を感じさせる景観要素の一つとして機能している。
- 6) 住民への聞き取り調査による。

#### [文 献]

- 井手口彰典 (2009): 萌える地域振興の行方－「萌えおこし」の可能性とその課題について. 地域総合研究, **37**, 57-69.
- 伊藤 薫 (2012): 岐阜県飛騨地域の観光産業について－白川郷と下呂温泉を例として. *Review of economics and information studies*, **12**, 1-26.
- 伊藤 薫 (2014a): グローバル経済と飛騨地域の観光産業－外国人観光客の増加は可能である－. *Review of economics and information studies*, **14**, 63-94.
- 伊藤 薫 (2014b): 飛騨地域の観光地間と観光地内の競争と協力. *Review of economics and information studies*, **15**, 49-72.
- 加藤晴美 (2011): 飛騨白川村にみる山村像の変容－明治期から昭和戦前期を中心として. 地理学評論, **84**, 22-43.
- 神田孝治 (2012): 白川郷へのアニメ聖地巡礼と現地の反応－場所イメージ及び観光客をめぐる文化政治－. 観光学, **7**, 23-28.
- 小室充弘 (2014): 世界遺産を活用した観光振興のあり方に関する研究. 運輸政策研究, **17**, 70-74.
- 佐藤悦夫 (2015): 外国人の見た五箇山と白川郷－観光地としての魅力の検討. 富山国際大学現代社会学紀要, **7**, 53-61.
- 白川村史編纂委員会編 (1968): 『白川村史全』白川村.
- 鈴木北斗 (2011): 観光がもたらした「文化」の変容と保全－岐阜県白川村荻町地区の事例から. 東洋大学社会学部卒業論文.
- 谷口知司・古池嘉和・瀬戸敦子 (2007): 観光地“白川村”の発展過程と観光の果たす役割. 岐阜女子大学紀要, **36**, 37-41.
- 西山徳明 (2001): ヘリテージ・ツーリズムと歴史的環境の保全－世界遺産白川村合掌集落における自律的観光の実現と課題. 国立民俗博物館調査報告, **21**, 61-80.
- 長谷川俊介 (2010): 世界遺産の普及啓発と教育. レファレンス, **712**, 1-27.
- 三好達也 (2003): 過疎地域におけるボランティア精神の変化と実態－「結」が果たしてきた役割を中心として. 佛教大学大学院紀要, **31**, 159-171.

### 英文タイトル

## Characteristics of Heritage Tourism from the Viewpoint of Japanese and Foreign Tourist's Behavior and Images in the *Shirakawago*

ICHIKAWA Yasuo, HATA Tsukasa and MATSUI Keisuke